

バス運転者に対するアンケート調査について



国土交通省

平成26年 4月25日

自動車局

V-1 ①. アンケート概要①

(1) アンケート概要

○全国の乗合バス事業者40社及び貸切バス事業者10社に所属する運転者500名を対象にアンケートを行った。

▼バス運転者アンケートの概要

項目	アンケートの概要
目的	<p>下記の内容を具体的に把握することで、バス運転者の人材流動の実態や、採用・定着対策検討の基礎資料とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①バス運転者の流動実態 ②バス運転者の視点で見る“バス運転者”という職業の魅力 ③バス運転者の視点で見る“バス運転者”という職業の改善点
対象	<p>全国の乗合バス事業者40社及び貸切バス事業者10社に所属する運転者</p>
配布・回収数	<p>配布:500票(各事業者において10名ずつ選定した者) 回収:345票(回収率69%)</p>
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼文とアンケート調査票・返信用封筒を事業者宛に郵送 ・事業者から運転者に依頼文・調査票・返信用封筒を配布 ・運転者から直接郵送回収

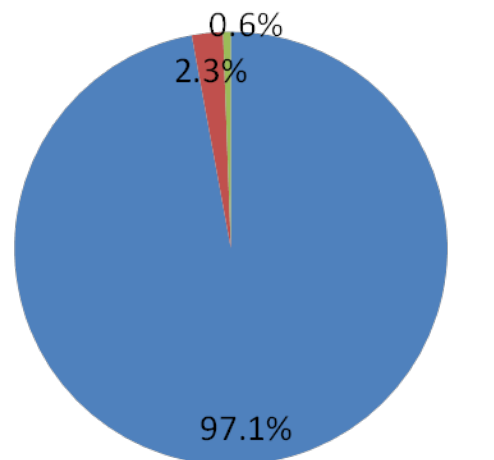
V-1②. アンケート概要②

(2) 回答者属性

○回答者の97%が男性であった。

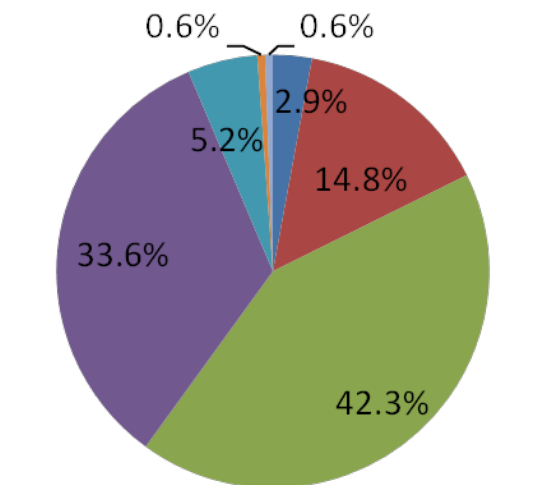
○年齢構成では、40～59歳が75%であった。

○年収は、300万円台が最も多く40%、次いで、400万円台が27.4%、300万円未満が17%であった。



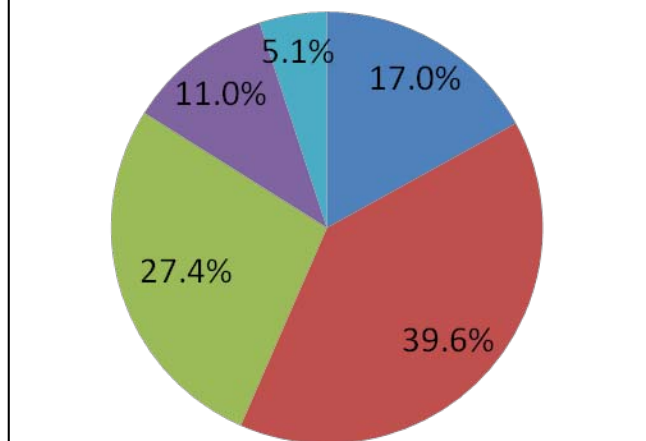
■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

▲回答者の性別



■ 20～29歳 ■ 30～39歳
■ 40～49歳 ■ 50～59歳
■ 60～69歳 ■ 70歳以上
■ 無回答

▲回答者の年齢



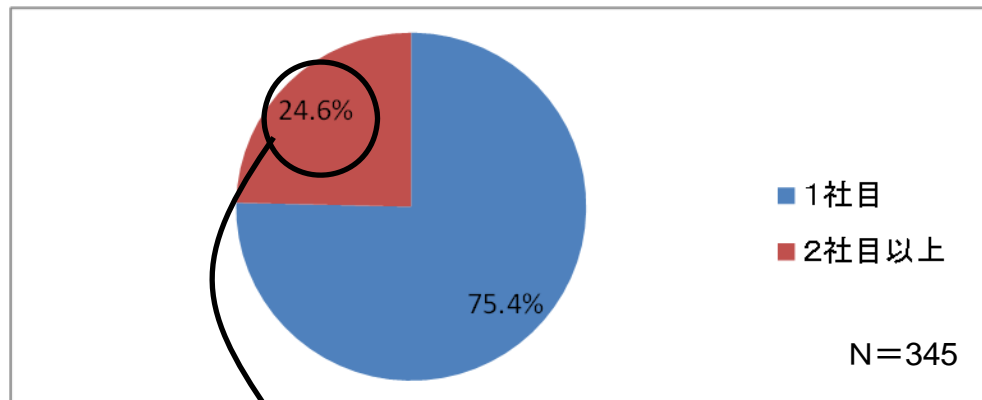
■ 299万円未満 ■ 300～399万円
■ 400～499万円 ■ 500～599万円
■ 600万円以上

▲回答者の年収

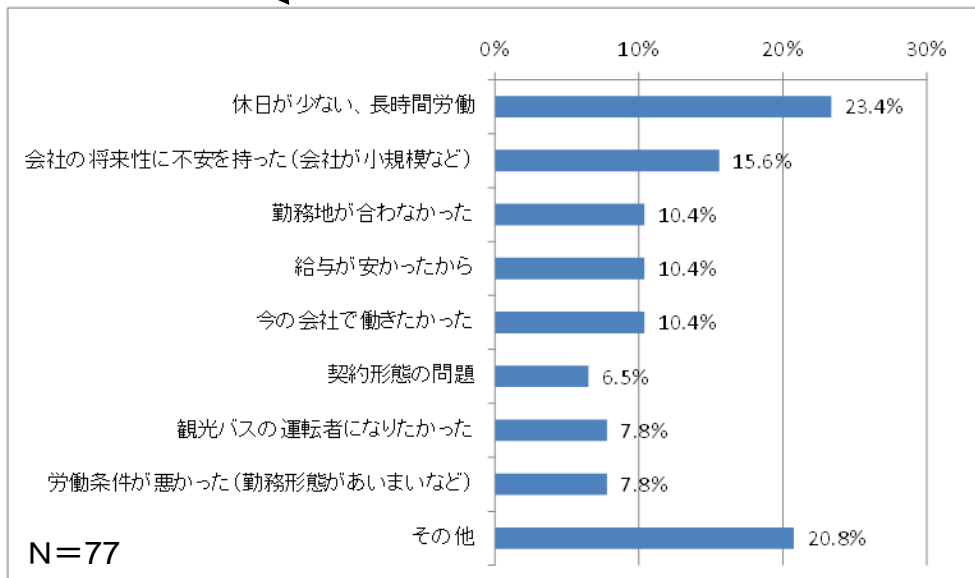
N=345

V-2①. バス運転者の就職の実態①

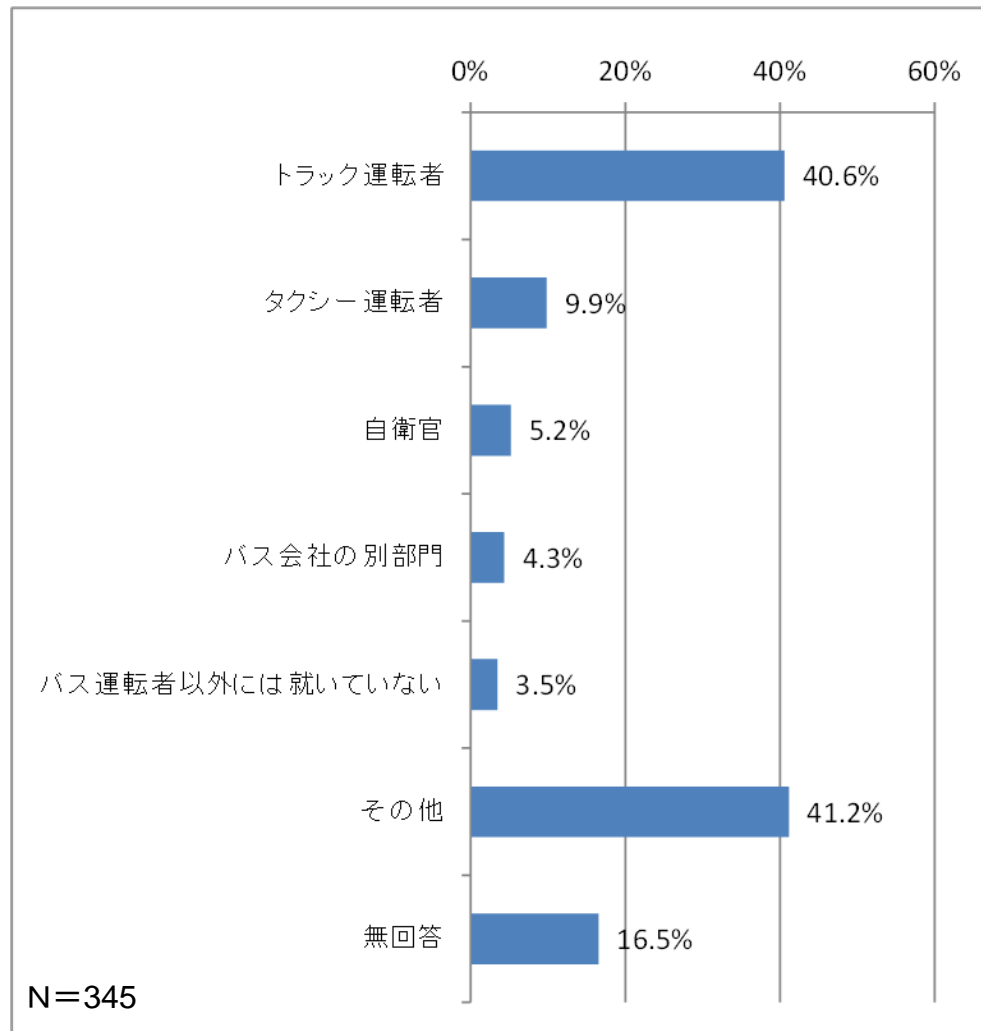
- 回答者の4人に1人が複数のバス事業者で運転者として勤務した経験がある。
- 前のバス事業者を辞めた理由は、休日が少なく長時間労働であることや、会社の将来性に不安を持ったことなどが挙げられている。
- バス運転者になる前は、40%がトラック運転者、10%がタクシー運転者、5%が自衛官を経験している。



▲転職の有無



▲前社を辞めた理由



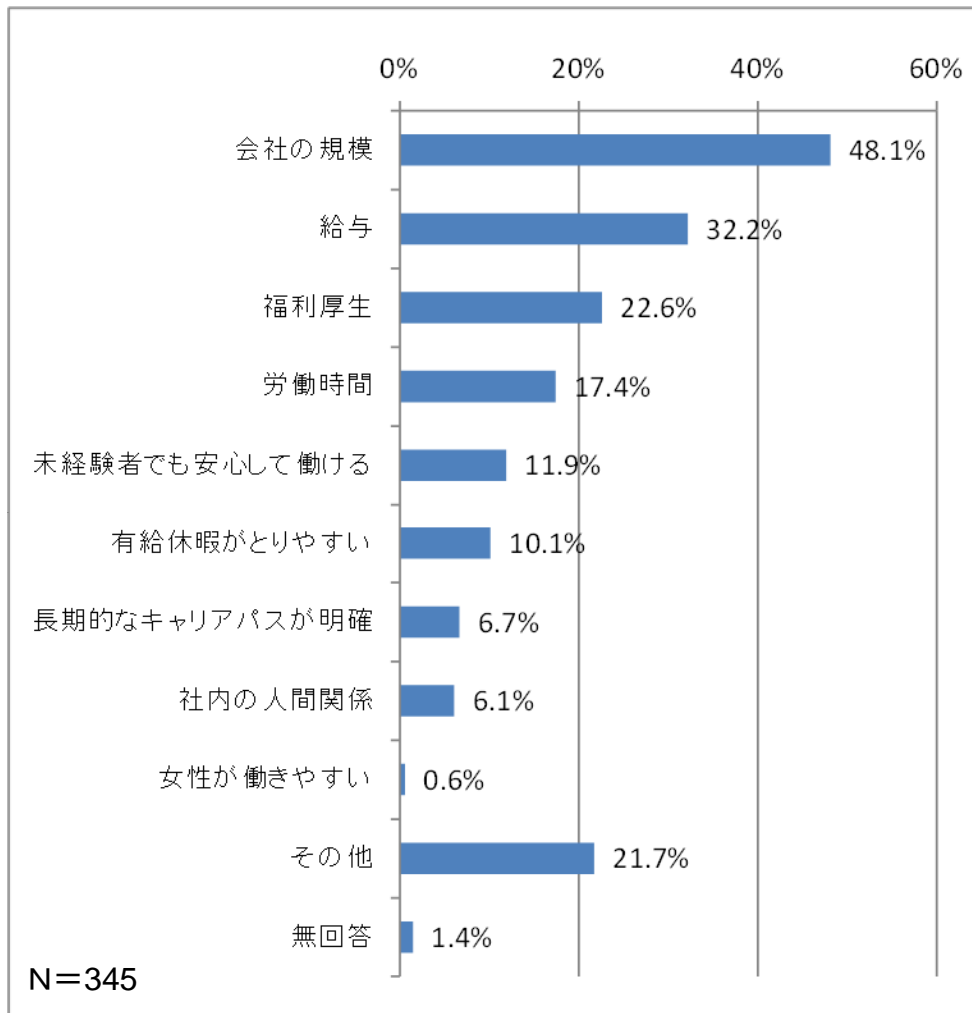
▲これまで就いた職業

V-2②. バス運転者の就職の実態②

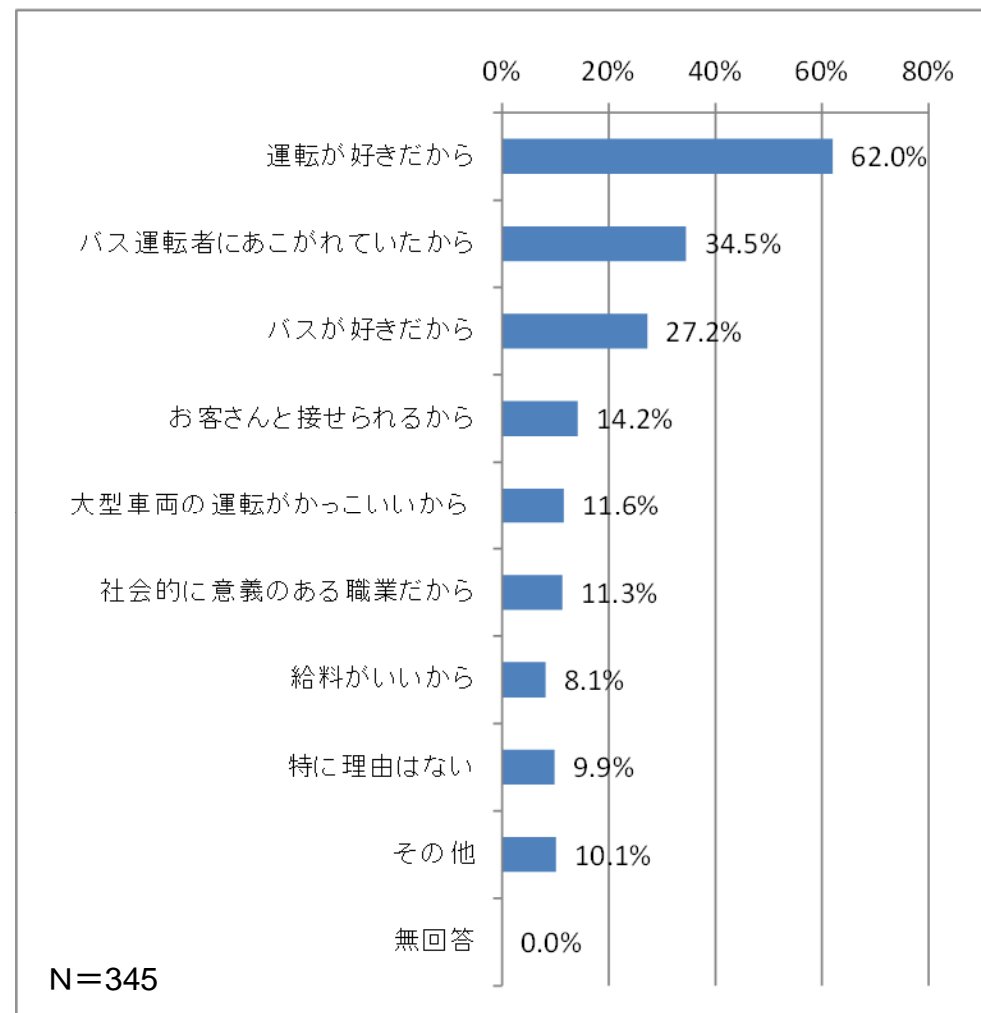
○バス会社を選ぶうえで重視する点は、「会社の規模」「給与」「福利厚生」「労働時間」の順に多い。

○バス運転者になった理由は、「運転が好きだから」が62%であった。

○また、「バス運転者に憧れていたから」や「バスが好きだから」なども職業選択の理由となっている。



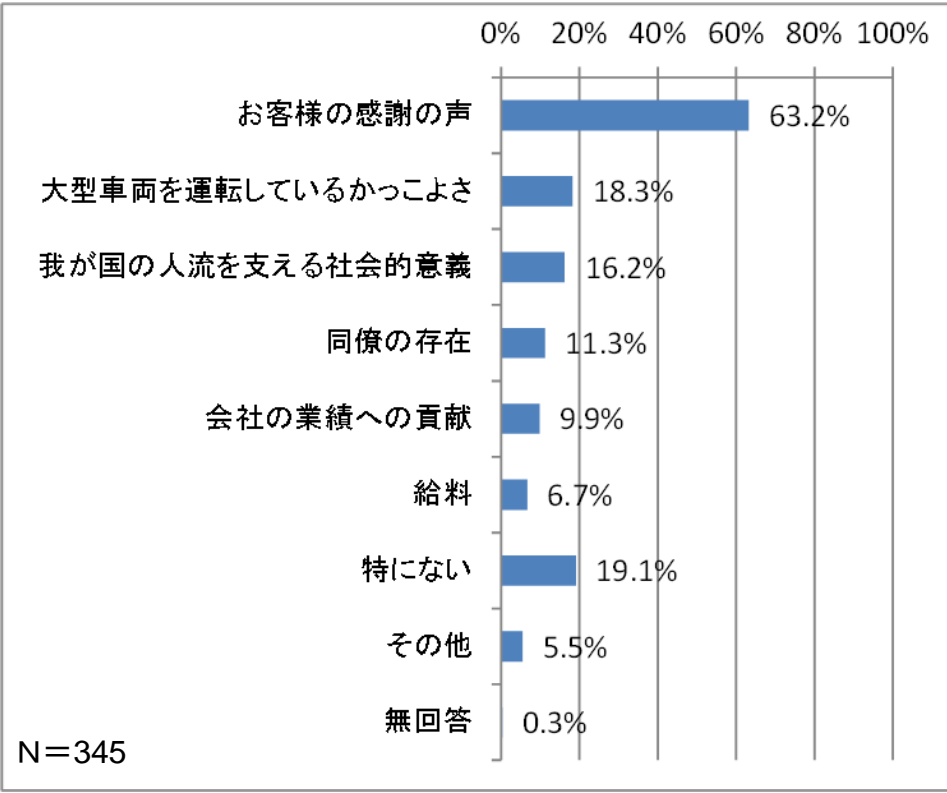
▲応募に際し重視した点



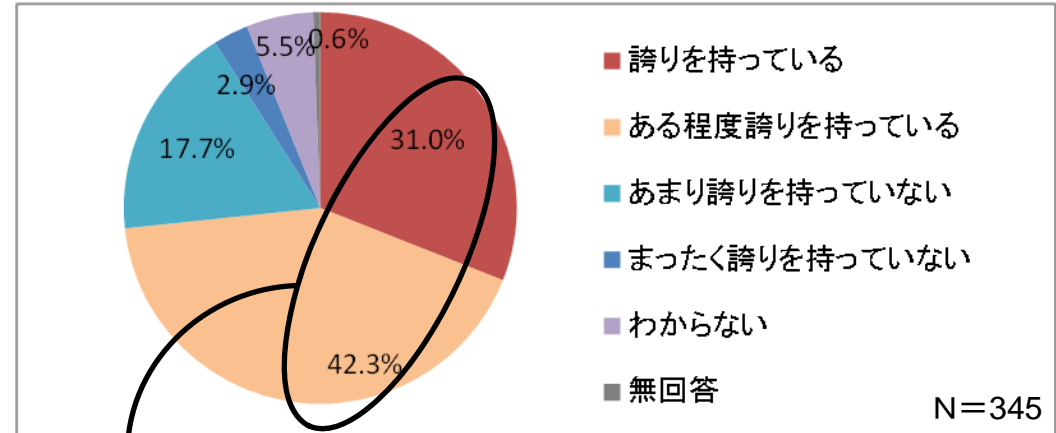
▲バス運転者になった理由

V-3. バス運転者のやりがいと誇り

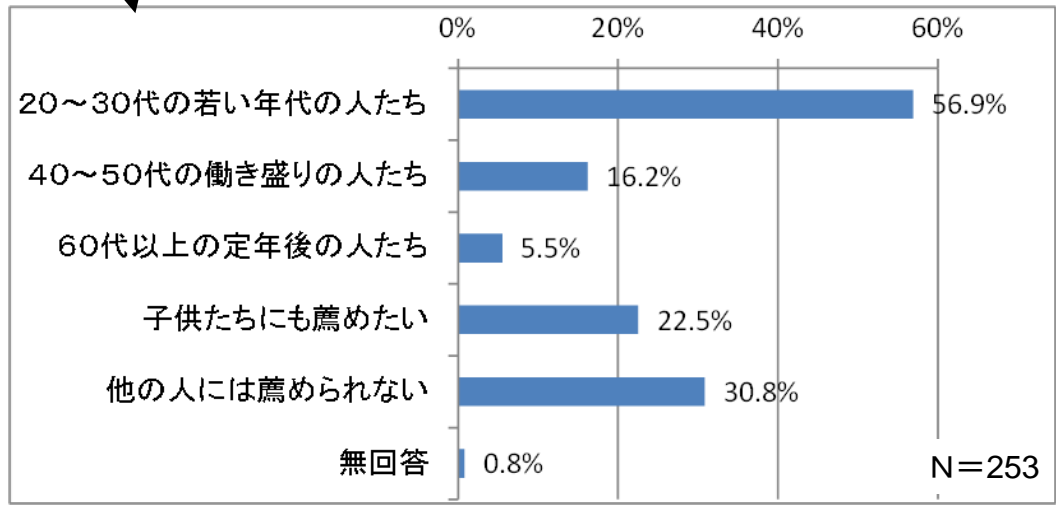
- バス運転者は、「お客様の感謝の声」をやりがいと感じている。
- また、「大型車両を運転しているカッコよさ」や「我が国の人流を支える社会的意義」などもやりがいとなっている。
- バス運転者の4人に3人は、バス運転者という職業に誇りを感じている。
- 20～30代の人たちにバス運転者になってほしいという声は多いが、子供たちに薦めたいという運転者は約20%にとどまる。



▲バス運転者のやりがい



▲バス運転者という職業への誇り

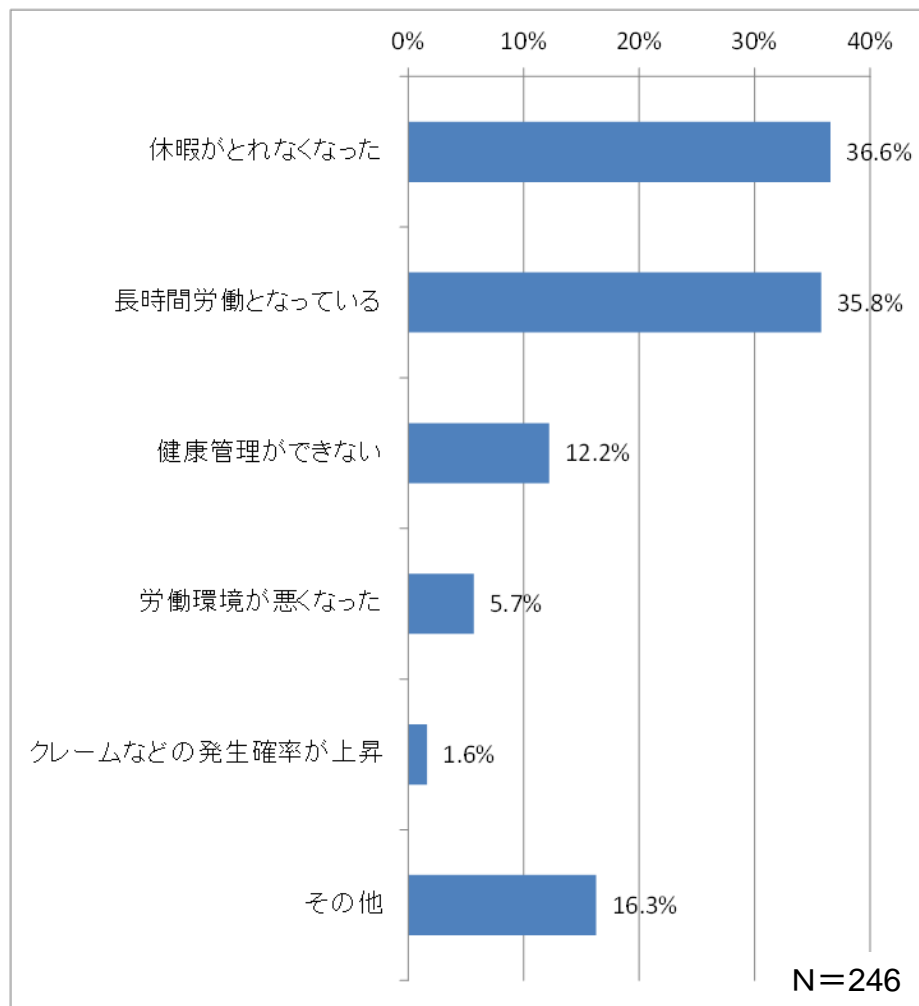


▲バス運転者になってほしい人

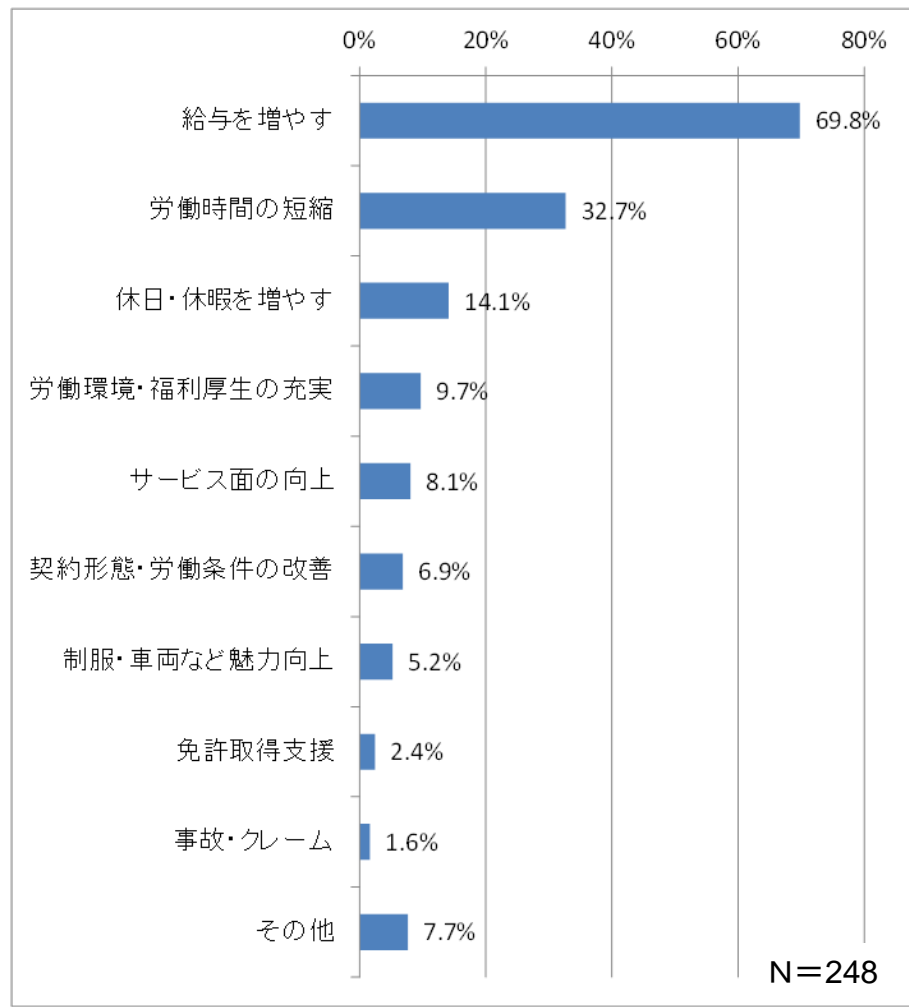
V-4. バス運転者の不足の影響と改善点

○バス運転者が不足することにより、約40%の運転者が休暇の減少・休日出勤の増加や労働時間の長期的労働化が生じたと回答した。

○職業としての魅力を高めるための改善点として、給与を増やす(70%)、労働時間の短縮(33%)などの回答があった。



▲バス運転者不足の影響



▲バス運転者の改善点

V-5. 女性運転者の声

■バス運転者は女性にも向いた職業

- 特に筋力は要らないので、運転職の中でも女性が安心して働け、誇りを持てる職業である。
- 男性もちろん、女性もバス運転者に向いていると思うので、潜在的に「なりたい！」「やりたい！」という女性が多いと思う。

■バス運転者の魅力を伝えることが必要

- 笑顔で清々しく接客している様子を利用者に見ていただくことにより、バス運転者という職業に魅力を感じてもらえると思う。

■勤務形態や時間的な工夫が必要

- 家族(子供)との時間を計画的に取れるように、運転手の数が増えるといいと思う。
- 拘束時間を短くして給料アップするとよい。

■職場の理解が必要

- 男性中心の職場でセクハラ等への心配や、早朝・深夜など不規則な勤務形態などに対する不安を改善した方がいい。
- 男性中心の職場で、年数の長い人や年長者のいじめがある。
- 男女平等と言われている世の中ですが、体力的な違いや身体の特徴の違いなど理解していただくと、多くの女性も働きやすい職業になると思う。
- 身体的な理由などにより運転業務が困難になった場合など、他の部署へ異動ができるとよい。
- 女性は体調管理が難しいので理解してほしい。

V バス運転者に対するアンケート調査(まとめ)

バス運転者の就職の実態

- 回答者の4人に1人が複数のバス事業者で運転者として勤務した経験あり。
- 前のバス事業者を辞めた理由は、過労働、会社の将来性への不安。
- バス運転者になる前は、5人2人がトラック運転者を経験。
- バス会社を選ぶうえで重視する点は、「会社の規模」「給与」「福利厚生」「労働時間」の順に多い。
- バス運転者になった理由は、「運転が好きだから」が半数以上。「バス運転者に憧れていたから」や「バスが好きだから」なども職業選択の理由となっている。

バス運転者のやりがいと誇り

- バス運転者の5人に3人は、「お客様の感謝の声」にやりがいを感じている。「大型車両を運転しているかっこよさ」や「我が国の人流を支える社会的意義」などもやりがいとなっている。
- バス運転者の4人に3人は、バス運転者という職業に誇りを感じている。
- 20～30代の人たちにバス運転者になってほしいという声は多いが、自分の子供たちに薦めたいという運転者は約2割。

バス運転者の不足の影響と改善点

- バス運転者が不足することにより、約40%が休暇の減少（休日出勤の増加）や労働時間の長期的労働化が生じたと回答。
- 職業としての魅力を高めるための改善点として、70%が給与の改善、30%が労働時間の短縮をあげている。

女性運転者の声

- バス運転者は女性にも向いた職業
- バス運転者の魅力を伝えることが必要
- 勤務形態や時間的な工夫が必要
- 職場の理解が必要

○4分の1が転職経験者で、前職はトラック運転者、タクシー運転者、自衛隊などである。

○70%がバス運転者の職業に誇りを持っており、お客様の感謝の声にやりがいを感じている。

○職業として、女性にも向いているとの評価がある一方で、制度面の対応や社内の理解の不足が指摘されている。